

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おきなわインターナショナルデイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	OIDTime(English Time)を開所日は毎日30分間、活動の一つとして取り組んでいます。毎月ごとのテーマ(身の回りのこと/季節/行事等)に沿ったフレーズやShow and Tell、フラッシュカード、ゲーム、ダンスなどがカリキュラムに組み込まれており、英語を通して、聞く/話す/真似する/答えるを繰り返し、コミュニケーションの練習が出来る場となっています。毎回の積み重ねで少しずつ出来る事/学べた事が増え、社会性の発達にも効果があり、自信にも繋がると信じています。	毎日同じ時間に30分間行なっていることで、始まりと終わりが明確に分かり、子どもたち自身でも習慣化出来やすいと考えています。また、時間設定も割と負担が少ない時間としており、安心して楽しく英語に触れられる時間を提供しております。カリキュラムの流れは決まっているわけではなく、利用児童の好きな事や特性に合わせて、“できた”“たのしい”と思える機会が増えるよう日々試行錯誤し、臨機応変に対応しております。また子どもたちと一緒に楽しむことを意識して職員も参加しております。	OIDTime時間やカリキュラムの内容の安定を保ちつつも、子どもたちの飽きを防ぐために、少しの変化や一人ひとりに合わせた成功体験を多く感じられる課題の設定、楽しく取り組める題材のバリエーションを増やしていけるよう努めて参ります。
2	日頃から、運動遊び/リズム遊び/製作/実験/SSTなど、事業所で出来る様々な活動を日替わりで取り組んでいます。一人ひとりの得意な事や興味関心に合った関わりが出来る事が大きな強みであると感じています。	活動によってそれぞれ異なる力(バランス感覚/協調性/表現力/集中力/手先を使う/創造力/考える力/探求心 etc...) が育まれるよう、計画から実施まで職員間で話し合ったり相談し合ったりしながら進めています。“たのしそう”“やってみよう”と思えるよう、活動の幅や興味の幅が広がるような関わりや声かけを意識しています。	子どもたちのやりたい事や意見を積極的に取り入れ、より主体的で効果的な時間となるよう働きかけていきたいです。同じ活動でも難易度を調整したり、関わりや声かけを工夫しながら、多くの子どもたちが達成感や喜びを味わえるよう努めて参ります。また、活動の振り返りの時間も取り入れ、“たのしかったこと”“気付いたこと”などを共有できる機会も増やしていきたいです。
3	児童が安心して通所できる環境づくりに努めており、日々の支援や関わりを通じて児童及び保護者様との信頼関係の構築を図っています。次年度も継続利用児童が多く、継続的な関わり成果でもあると有難く思っております。	日々の関わりの中で小さな変化や成長を感じられる瞬間、“できたこと”“むずかしかったこと”を気付けるよう、職員間でも情報共有を行ない、統一した支援が行なえるよう努めています。出来事は保護者様とも共有し、共に喜びを共感するできる機会を嬉しく思っております。	より質の高い支援を提供するため、職員の専門性向上に向けた研修の充実を図っていく。また、保護者様や関係機関との連携を大切にしていき、事業所とご家庭での様子や課題を共有しながら、より一貫性のある支援に努めて参ります。職員間の情報共有を円滑にし、チームで統一した支援が提供できる体制づくりに取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の活動スペースの広さは課題だと感じています。安全面を優先に考えると、出来る活動も限られてくる場合も多々あり、限られたスペースの中でいかに子どもたちが安心/安全に過ごせるかが課題となっています。	利用児童の成長と共に、年々、事業所のスペースの確保が課題となっています。(物理的な問題点でもある)子どもたちの成長に伴い、身体を動かしたり活動量も増え、より広い空間が必要と感じています。	不要な物を出る限り取り除き、活動で使用できる空間の確保に努めていきます。また、簡易的な仕切り(カーテンやパーティション)の設置を検討し、用途に合わせた環境作りに努めていきます。
2	保護者会/交流会の開催回数や、きょうだい支援や家族支援などは事業所からの発信が少ないと感じています。支援方法の発信などでは、LINEやSNSをあまり活用できていないと感じています。	毎年行なっている、参観日の週と保護者会を別日の開催で分けたこともあってか、保護者会/交流会へ参加いただける人数が少なかつたので、できるだけ多くの保護者様に参加いただけるよう、開催時期を分けて回数を増やしていけるよう検討していきます。きょうだい支援や家族支援の情報や知識不足も感じているので、積極的に情報収集を行ないながら、少しずつ出来る事から取り組んでいきたいです。	時間帯、曜日を複数設定したり、時間が長くなりすぎないように考慮し、日々忙しい保護者様も参加しやすい日程で検討していきます。また、テーマも明確にしながら、受け取る側に「届く発信」を意識して発信していきたいです。きょうだい支援や家族支援(ペアレントトレーニングなども含む)情報収集を積極的に行ない、すぐに実践できることから取り組めるよう工夫していきます。(LINEやSNSでの発信の検討)親子遠足など、参加型のイベントも今後積極的に取り入れていきたいです。
3	地域や外部との交流がまだまだ少ないと感じています。(地域の児童クラブさんや保育園、商業施設などへ、パンフレットを配布しながら事業所を知ってもらえるよう取り組んでいますが、交流の面ではもっと回数を増やしていきたいと感じています。)	地域の方と日頃から関わったり、繋がる機会や接点が少ないと感じています。発信不足も感じるので、もっと存在を知ってもらうために活動内容も積極的に発信していく必要があると感じています。	地域や外部との繋がるきっかけを見出し、目的や見通しを持って発信/実践できるよう努めて参ります。“交流”の意味をしっかりと捉えながら、繋がりが関わりを大切にしていきたいです。またどんな事業所なのかより知っていただくために積極的にチラシやパンフレットを配布していきたいです。